	第４回　横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録
議題	（１）今後の都市デザイン行政について ア　(仮称)横浜都市デザインビジョンについて(審議) （２）その他
日時	平成 25 年 1 月 11 日（金）　午前 10 時から午前 11 時 40 分まで
開催場所	横浜市開港記念会館　2 階　7 号室
出席者(敬称略)	委員：西村幸夫（部会長)、佐々木葉、中津秀之 専門委員：国吉直行 書記：齋藤泉（都市整備局都市づくり部長)、中野創（都市整備局都市デザイン室長） 塚田洋一(都市整備局都市デザイン室担当課長) 事務局（資料説明者)：曽根進（都市整備局都市デザイン室担当係長）
開催形態	議題（１)、(２）とも公開（傍聴者 3 名）
決定事項	・各委員の意見を踏まえ、(仮称)横浜都市デザインビジョン(案)の加筆修正を行う。 ・今後の都市デザイン活動を推進する仕組について、資料を作成する。
議　　事	議　事 （１）今後の都市デザイン行政について ア（仮称）横浜都市デザインビジョンについて（審議） 市が資料に基づき説明を行った。 **○西村部会長**　このデザインビジョンは、横浜市全体の議論をするものか、デザイン室がやるビジョンなのか。位置付けはどうなっているのか。 **○中野書記**　これまでの都市デザイン活動を踏まえ、今後、郊外、都心部でどのように都市デザインをそれぞれに展開していくのかということを都市デザイン室なりに考えていければとならないと思っています。 駅前の再開発など、専門的に実施する部署があり、住宅の再生も民間事業者が自主的にやるなど、今後は、行政だけではなくて、多様な主体がまちづくりにかかわっていくことになると思いますので、都市デザインがどういう役割で展開していくのかということを検討する必要があると思っています。 **○中津委員**　このビジョンは、アクセントのつけ方というか、どこに体重を載せるかということも含めて精査しないといけない。 **○国吉専門委員**　都市デザイン活動というのは、都市デザイン室だけのものではなくて、広く横浜市行政の中でも多局にわたって行われるものだと思います。あるところにおいては、プロモーションに加わる、リードしていくというのは都市デザイン室だと。 次の時代の都市づくりの方向性がはっきりしていないので、それも含めて、都市デザイン室が所管する都市デザイン行政ではこういう視点を持ってやるべきだという考え方を打ち出しているというのが、このビジョンなのかなと思っています。 部分的には戦略的に強力にやるプロジェクトも中には出てくると思いますけれども、このビジョンをすべて、都市デザイン室のプロジェクトとしていくということではないのではないかと感じています。 **○西村部会長**　都市デザイン室のビジョンというだけではなくて、都市デザイン室が都市デザインに対する横浜のビジョンを描くことが、ほかのところにもある種共有されたり、動いていくと。そういった意味では、非常に全市的なものでいいということなのですね。 **○国吉専門委員**　それで、新たな時代の都市デザイン行政として打ち上げることによって、各局が個別にやる事業にもそういう視点から必要に応じて加わっていきますということをある意味で宣言していくということにもなるのかなと思っています。 **○中津委員**　６大事業はビジョンというイメージがある。このビジョンは教科書的にすべてを網羅しようという意識が働いています。それぞれの部署とか、あちこちの地域でいろいろなことが起きるときに、こういうものに従ってくださいというような意味づけで見えたので

す。それはビジョンというより、むしろガイドラインとした方が良いように感じました。
○西村部会長　かつては６大事業みたいな何かあるプロジェクトベースで全体を描いて、それに向けて頑張るみたいなものが１つの都市の政策としてあり得たけれども、前とは違うような都市戦略が全体としてあると思います。
　非常に大きく都市の描き方が変わってきているのではないかということもあると思います。
　何か今の時代認識というか、今やるということがどんな意味を持っているかというようなところをちゃんと整理しておく必要があると思います。
○中野書記　言葉の定義も含めて、整理していく必要はあると思っています。今つくろうとしているものの位置づけというものを先生方の意見をいただいて、整理していきたいと思っています。
○佐々木委員　このビジョンの最後にある今後の都市デザイン活動の推進の仕組みについて気になっています。当たり前と言うと失礼ですけれども、当たり前にやるべきことで、これをどうやっていくのかというところにこそ、横浜市都市デザイン室、あるいは、横浜の都市デザインの特性、特色とか、もっと言えば、ポリシーが出ているのかなと。
　例えば、ある部局のある仕事をどうやるのかということに関しては、都市デザイン室は必ずコミットメントをしていくのだというようなことが、もしかするとこの後に出るのかなと期待しながら、思っていたところです。
　だから、ビジョンなのか、ガイドラインなのか、あるいはポリシーなのかというあたりが、多分ここだけでは完結しなくて、この次のこれをどう持っているかによって変わってくるのだろうという気がしています。
○西村部会長　そこのところはどうなのですか。ここはまだ、今のところ全く白紙で、まず前段を議論してやるのか、今後の展開が８つあるのだったら、８つの仕組みみたいなものがイメージとしてもうあって、もう少し後の会で出そうという話なのかどうか、その辺は何かあるのですか。
○中野書記　都市デザインの40周年のシンポジウムなどでも議論しましたが、もう少し今後やるべきことの方向が整ったら、次回ぐらいからはこの仕組みについてもぜひご提案をいただきながら整理していければと思っています。
　行政の内部の専門家としての役割と、外部の専門家とのコラボレーションとか、今までのやり方どおりでいいのか、今後は内部の専門家のスペシャリストとしてどう我々があるべきなのかということなど、重要なところだと我々も思っています。
○佐々木委員　ルールではなく、横浜は徹底的に協議型でやってきたとか、何かそういう特性こそを前面に出すような書き方にした方がよい気がします。
　時代の変化の中でやはり条例だとか、ルールだとか、そういうものに頼らないと協議だけではいけなくなっている世の中になってきているのですけれども、だからこそ、もう一度横浜は徹底的に担当者と担当者の協議というものを大事にして、そこでのリスペクトというものをエンジンにしながら進めていくのだとか、それは多分ポリシーであるのかもしれないですけれども、そこが欲しいような気がします。
○西村部会長　例えば、協議型みたいなところを展開の１つの柱にしていくこともあるのかなということでしょうか。
　今後の展開の３つ目の歴史について、私はこれも大事だと思いますが、象の鼻パークみたいに、今はできないけれども、将来は絶対こことここをつなぐというような意思というか、そういうものをもって何か頑張るということが結構重要だと思うのです。
　戦略みたいなものをずっと持っていて、ここのところは将来、こうすると。でも、今はできないけれども、やれるときが来たら、それをやるのだと言って長期にわたって考えていくべきだと思うのです。
○中野書記　１番でその点は考えていましたが、もう一度、整理したいと思います。
○佐々木委員　今後の展開の６番のところに、道路や廃線跡地についてすごく具体的なものが出ていますが、これはそんなにいろいろあるのですか。
○中野書記　具体的には、桜木町と横浜を結ぶ東横線の跡地のプロジェクトに参加しており、

ニューヨークのハイラインを含めて今、割と世界的にもこういうものの活用が重要視されているので書いています。

○佐々木委員　都市の構造などがリノベートされていくときに、そこをどう戦略的に使っていくのかということであるとするならば、必ずしも６番でなくてもいいかと思います。

○中津委員　郊外と都心を一体として考えるとか、団地の再生の話なども入っていましたし、コミュニティの話も入っていますし、すごく人々の、人のこと、生活のことというのに少子高齢化などが入っていることは、都市デザイン室の今まで出してこなかったことなのかなと思って、すごくいいなと思って見せていただきました。

○国吉専門委員　郊外の再生みたいなところがあるのですけれども、郊外なりのもっとアクティブな場をつくっていくみたいな、都心があって郊外があるというのではなくて、郊外で１つのまとまった活動のようなものが出てこないかなと思います。

○中津委員　（ビジョンには）結構バランスよくばらばらに入っている。郊外での農業のこともちょっと入っていましたし、今農政が緑区のほうではかなりまちづくり的な活動をやっていることとかも引っ張り上げています。

東神奈川のエリアなどを考えると、二次産業的なものからＲ＆Ｄ（研究開発）に変わってきている現状だとか、民有地をどのように公的利用にシフトすべきとか、アジアの拠点的な位置づけには産業誘致ということがありますから、その辺の色合いが少し薄いかなという気がします。

それと、金沢区であれば漁業があります。

漁業、農業、それとあとエネルギー問題とかでコンパクトシティのワンセットが横浜の中でできればいいなというイメージは個人的にはあります。

○西村部会長　そうですね。６の環境のところで本編のほうを見ると、環境のところの12ページですけれども、出ているのが割と薄いのです。

農とか、工業の環境配慮とか、生き物との共生とか、何かもう少しすごくいろいろな意味での環境のことが言えるのではないかと思います。

○中野書記　議論してどのように産業面などで関われるのか考えてみたいと思います。

○国吉専門委員　土地利用の大規模な変化に対応した新しい空間構造の提示とか、これからの重要な課題として前面に出しておくということが大事なのではないかと思います。

早めにいい提案をしていって、できるだけそちらに対しても誘導していくというのがやはり役割としては大きいですね。

あと、金沢区などのことを考えますと、周辺都市との連携みたいな話などもあります。

○西村部会長　そういう意味では、そういうところも応援団になってくれれば、両方で多様な魅力で地域全体を守り育てていくなど、この広いビジョンが牽引するみたいな役割というのがあるかもしれません。

地域連携の１つの柱になれることもあるかもしれないですね。

○中津委員　エネルギー的なものというのは、何か触れないのですか。

○中野書記　スマートグリットのような話も含めて、温暖化対策事業本部が環境未来都市としてどう進めていくのか、電気自動車みたいな新たな仕組みをどう展開していくのかということも検討したいと考えています。

○佐々木委員　そういうものはビジネスとしてではなく、むしろライフスタイルとしてとらえてもらう必要がある。

○中野書記　暮らし方みたいなものを考えていければと思います。

○佐々木委員　ライフスタイルで言えば、こういう暮らし方をしていきたいのだ。だから、こういう風景、こういう空間、こういうインフラ、こういうまちとのつき合いがいるのだというところに何か通しておかないといけません。だから、これをどういう場所にどういう具体的な形で描いていくのかというところで、やはりデザインという言葉が入っている意味があると思います。

○西村部会長　あと、先ほど配った調査の中で、「街並み・景観」というのが、すごく魅力のトップに来ているとのは、本当に考えさせられるなと思ったのです。ある意味、都市デザイン室のこれまでの成果だと思うのだけれども、そこで、訴えているのはいろいろものの質の

高さであり、それは最終的には文化的なものを感じさせるわけです。
　そういうものがやはり都市デザインの中で生まれてくるというか、文化に力があって、それは個々の小さいもののデザインの質の高さだとかというところに支えられているのだと。
　そのようなことも少し言ってもいいのではないかと思うのです。それがこういうふうな都市の魅力につながってくるのだと。
　でも、本当にこれは非常に重要な文化政策だということなのだけれども、余り文化ということは出てこないのです。もう少し入れてもいいかもしれません。
　もう一つは質の高さについて、細部のデザインにこだわるような意思の高さから、建物全体まであるので、何か本当にいろいろなものをやるということが結果的に景観になるので、ここで言う景観とか街並みというのは、そういう一つ一つの努力の集大成みたいなものだと思うのです。それが都市の魅力としてだということを、４でもう少し言ってもらうといいのではないかなと思います。
○佐々木委員　とにかくすごく原稿化しづらいから、難しいですね。
　だから、そういう言語とか、ルールとかにしづらいものを大事にしていくのだよというのを言ったほうがいいと思います。
○西村部会長　それが横浜的なのですね。恐らく仕組みの中でそういう専門家を内設するのか、ちゃんとどこか近いところに持つのかとかという議論は次にやるのですね。
○中津委員　教育部門とは、こういう話はしていないのですか。
○中野書記　卯月会長からは、この景観教育は非常に大切だというご意見をいただいているので、そういうことも含めてやっていかなくてはいけないと思っています。
○西村部会長　あとは、観光の視点ですね。それはどういう形で全体としては、この中に反映されたのですか。観光とかＭＩＣＥの活性化というところですか。
○中野書記　活力を拡大する都市デザインのところに観光の項目を入れました。
○西村部会長　あと、ＭＩＣＥにもいろいろかかわっているのですけれども、観光庁にとってもＭＩＣＥは非常に重要です。その中でいろいろ議論をしていると、ＭＩＣＥが一番状況として整っているのはやはりみなとみらい地区だというのです。つまり、メッセみたいなところと、泊まれるところがすごく近接して、全体として都市のアメニティがあるというのは、ほかにないのですね。全部ワンセットにあって、ものすごくたくさんの人を呼べると。それは経済効果がものすごいのだと言うのです。だから、そんな意味では、ＭＩＣＥの可能性は横浜が一番あるのは間違いないと思うのです。
○中野書記　パシフィコを中心としたコンベンション機能はかなりの稼働率で、アジア、アフリカ、アフリカの国際会議なども開催を含めて、外務省を含めて国際会議も十分高い評価を得られていますから、それは堅実に推進していくことですが、それをどれぐらい膨らませていくべきなのか、どうかというところを、まさにこれから議論になると思われます。
○佐々木委員　小さいからやりたい人と、ちょうどいい、この大きさでやりたい人もいるでしょうから、何も大きいものだけやりたいばっかりではないから。
○中津委員　そういうのは、観光とカップリングできているのがすごくいいと思いますね。その辺をもっと強化できるといいなという気がします。
　それと、社会福祉とかって、何か弱者に対するまちのあり方みたいな、社会福祉的なことが記載されていません。せっかくコミュニティとか、人々の生活とかと言っているのであれば、多少入っていてもいいかなと思います。
○西村部会長　車いすに乗っている人と話をしたときに、アメリカ西海岸で何かの会議に行くことがあり行ったら、そのときは気がつかなかったけれども、行って、ずっと車いすに乗っていたら、すべてのところでまったく不便を感じないと言うのです。ところが、日本に戻ってくると、自分たちの周りはいかにバリアがあるかというのを改めて気づかれさたというのがありました。

	（2）その他 なし 閉　会
資　　料	・第 4 回政策検討部会配布資料
特記事項	・本日の議事録については、部会長が確認する。 ・次回の開催日時は、平成 25 年 3 月 21 日(木)　14:00～16:00 を予定。